

令和 5 年度 60 回生 授業概要（シラバス）

科目名	診療・治療関連技術Ⅰ	分野/教育内容	専門分野Ⅰ/基礎看護学
開講年次・ 時期	2 年後期 令和 6 年 1 月	単位数/時間	1 単位/30 時間
担当講師名	秋田剛典	所属・役職	宮古高等看護学院・専任教員
		資格・免許	看護師 保健師
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・薬物療法の基礎知識を理解し、安全かつ適切な与薬の方法を学ぶ。</li> <li>・輸血管理の基礎知識を理解し、安全な輸血の実施と援助の方法を学ぶ。</li> </ul>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 薬物療法における看護師の役割と援助の実際を理解する。</li> <li>2. 様々な与薬方法の特性を理解し、安全かつ安楽に実施するための方法を理解する。</li> <li>3. 注射や輸液の実施、管理に伴う危険性と、安全な実施方法を理解する。</li> <li>4. 輸血療法に関する基礎的知識を理解する。</li> </ol>		
事前学習内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習内容に該当するテキストや参考資料等を読んでから授業に臨むこと</li> <li>・随時事前・事後学習課題がある。計画的に取り組み提出期限を遵守すること。</li> </ul>		
成績評価の 方法	終講試験：100 点 ※講義や演習への参加状況によっては減点の対象となる。		
使用テキスト	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ（医学書院）</li> <li>2. 看護技術プラクティス [第 4 版]（学研メディカル秀潤社）</li> </ol>		
授業回数	授業概要(主な学習内容)		授業形態
第 1 回	与薬に関する基礎知識①		講義
第 2 回	与薬に関する基礎知識②		講義
第 3 回	経口与薬法・口腔内与薬法		講義
第 4 回	吸入、点眼、点鼻、経皮的与薬①		講義
第 5 回	吸入、点眼、点鼻、経皮的与薬②		演習
第 6 回	直腸内与薬法①		講義
第 7 回	直腸内与薬法②		演習
第 8 回	注射法の基礎知識①		講義
第 9 回	静脈内注射、点滴静脈内注射、中心静脈カテーテル法①		講義
第 10 回	注射法の基礎知識②		演習
第 11 回	静脈内注射、点滴静脈内注射、中心静脈カテーテル法②		演習
第 12 回	輸血療法		講義
第 13 回	筋肉注射、皮下注射、皮内注射①		講義
第 14 回	筋肉注射、皮下注射、皮内注射②		演習
第 15 回	筋肉注射、皮下注射、皮内注射③		演習
履修上の 留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の予習・復習を行い疑問点はそのままにせず質問するなど、積極的に知識・技術の習得に努めること。</li> <li>・演習の際は、看護技術の習得に向けて積極的に取り組むこと。</li> <li>・演習で実施した技術の習得に向けて、自発的に練習を行うこと。</li> <li>・授業内容は変更される場合がある。随時次回の授業予定を確認し、必要な準備をして臨むこと。</li> </ul>		

令和5年度 60回生 授業概要(シラバス)

科目名	診療・治療関連技術Ⅱ	分野/教育内容	専門分野/基礎看護学
開講年次・時期	2年前期 令和5年6月7日	単位数/時間	1単位/30時間
担当講師名	秋田剛典	所属・役職	専任教員
		資格・免許	看護師 保健師
授業の概要	検査や処置を受ける対象の援助に必要な基礎看護技術を習得する。		
到達目標	1. 各種検査・処置の目的と意義について理解する。 2. 検査・処置が実施される際の看護師の役割について理解する。 3. 静脈血採血の方法と注意点について理解する。		
事前学習内容	解剖学、生理学の学習内容を復習しておく。		
成績評価の方法	グループワークおよび発表、資料の内容(40点) 終講試験(60点) ※講義や演習への参加状況によっては減点の対象となる。		
使用テキスト ・参考書	1. 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ (医学書院) 2. 新訂版 看護に生かす検査マニュアル [第2版] (サイオ出版) 3. 看護技術プラクティス [第4版] (学研メディカル秀潤社)		
授業回数	授業概要(主な学習内容)	授業形態	授業場所
第1回	「検体検査」 についてのグループワーク	演習	教室、図書室、情報科学室 他
第2回			
第3回			
第4回	「検体検査」 についての発表	講義	多目的室
第5回			
第6回	検体検査	演習	教室
第7回			
第8回			
第9回	「生体検査」 についてのグループワーク	演習	教室、図書室、情報科学室 他
第10回			
第11回	「生体検査」 についての発表	講義	多目的室
第12回			
第13回	生体検査	講義	教室
第14回			
第15回	静脈血採血	演習	演習室
	静脈血採血	講義	教室
	生体情報のモニタリング	講義	教室
履修上の留意点	1. グループでの学習と、その内容の発表(プレゼンテーション)を中心とした授業である。 グループメンバーで協力し、主体的かつ計画的に学習を進めてほしい。 2. グループワークの内容は、臨地実習に向けた事前学習や資料作りにもなる。臨地実習でも 有用な資料となるよう、自分にも第三者にも分かりやすいものを作成してほしい。 3. 提示したもの以外にも様々な資料に当たることを期待するが、内容の信憑性については 十分注意すること。		

令和5年度 60回生 授業概要（シラバス）

科目名	診療・治療関連技術Ⅲ (電法・呼吸管理)	分野/教育内容	専門分野/基礎看護学
開講年次・時期	2年前期 令和5年4月12日～	単位数/時間	1単位/30時間 「診療・治療関連技術Ⅲ」の科目を構成する各単元の授業時間は以下のとおり ・ <u>電法・呼吸管理:20時間</u> ・ 創傷ケア:4時間 ・ CE機器:6時間
担当講師名	千葉勝子	所属・役職	宮古高等看護学院・看護教員
		資格・免許	看護師・助産師
授業の概要	診療・治療を受ける看護の対象の援助に必要な基礎看護技術を習得する。		
到達目標	① 酸素療法の目的と方法を理解し、中央配管方式と酸素ボンベによる方法について学ぶ ② 喀痰の目的と方法を理解し、体位ドレナージや喀痰介助法などの援助方法を学ぶ ③ 一時的吸引の目的と方法を理解し、その援助の実際を学ぶ ④ 胸腔ドレナージの目的と方法を理解し、その援助の実際を学ぶ ⑤ 吸入の目的と方法を理解し、ネブライザーを用いた場合の援助を学ぶ ⑥ 人工呼吸療法の目的と人工呼吸器のしくみを理解し、援助の実際を学ぶ ⑦ 体温調節機能に異常をきたした人への援助を学ぶ(電法含む)		
事前学習内容	解剖・生理学の呼吸器を復習しておく		
成績評価の方法	呼吸管理 60点／点(創傷ケア・CE機器と合わせて100点満点)		
使用テキスト	・医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ ・看護技術プラクティス		
授業回数	授業概要(主な学習内容)		授業形態
第1回	呼吸の基礎知識①		講義
第2回	呼吸の基礎知識②		講義
第3回	酸素療法(酸素吸入療法)援助の基礎知識・援助の実際① ・酸素ボンベ・酸素流量計・鼻腔カニューラ・酸素マスク		講義
第4回	酸素療法(酸素吸入療法)援助の基礎知識・援助の実際② ・酸素ボンベ・酸素流量計・鼻腔カニューラ・酸素マスク		講義
第5回	排痰ケア排痰ケアの基礎知識 援助の実際 ・体位ドレナージ・一時的吸引・持続的吸引・胸腔ドレナージ・吸入		講義
第6回	酸素療法の実際		演習
第7回	排痰ケアの実際		演習
第8回	体温調節の基礎知識		講義
第9回	電法の実際		演習
第10回	まとめ		講義
履修上の留意点	・授業の予習・復習を行い疑問点はそのままにせず質問するなど、積極的に知識・技術の習得に努めること。 ・演習の際は、看護技術の習得に向けて積極的に取り組むこと。		

令和5年度 60回生 授業概要(シラバス)

科目名	診療・治療関連技術Ⅲ (創傷ケア)	分野/教育内容	専門分野/基礎看護学
開講年次・時期	2年前期 令和5年6月22日開始	単位数/時間	1単位/30時間 「診療・治療関連技術Ⅲ」の 科目を構成する各単元の授業 時間は以下のとおり ・ 罨法・呼吸管理：20時間 ・ <u>創傷ケア：4時間</u> ・ CE 機器：6時間
担当講師名	小野寺恵子	所属・役職	県立宮古病院・主任看護師
		資格・免許	皮膚排泄ケア認定看護師
授業の概要	診療・治療を受ける看護の対象の援助に必要な基礎看護技術を習得する。		
到達目標	創傷管理の意義を理解し、創傷処置の方法、褥瘡予防の方法が分かる		
成績評価の方法	筆記試験による評価 創傷ケア：20点		
使用テキスト	・ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ ・ 看護技術プラクティス		
授業回数	授業概要（主な学習内容）		授業形態
第1回	創傷管理技術：創傷管理の基礎知識(テープの貼り方、剥がし方も含む)		講義・演習
第2回	創傷管理技術：褥瘡予防		講義
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の本授業に関連する内容に必ず目をとおしてから授業を受ける</li> <li>分からないことはそのままにせず、疑問を解決できるように行動する</li> </ul>		

令和5年度 60回生 授業概要(シラバス)

科目名	診療・治療関連技術Ⅲ (CE 機器)	分野/教育内容	専門分野/基礎看護学
開講年次・時期	2 年前期 令和 5 年 6 月 21 日開始	単位数/時間	1 単位/30 時間 單元ごとの授業時間の内訳は以下のとおり ・ 電法・呼吸管理：20 時間 ・ <u>CE 機器：6 時間</u> ・ 創傷ケア：4 時間
担当講師名	及川 真紀子	所属・役職	県立宮古病院 主査臨床工学技士
		資格・免許	臨床工学技士
授業の概要	診療・治療を受ける看護の対象の援助に必要な基礎看護技術を習得する。		
到達目標	医療機器を使用し、正しい成果を得るために各機器のメカニズムを理解し、安全に適切に使用方法を学ぶ		
事前学習内容			
成績評価の方法	試験での評価(20 点)		
使用テキスト	医学書院 臨床看護総論		
授業回数	授業概要(主な学習内容)		授業形態
第 1 回	医療機器の概要		講義
第 2 回	医療機器の実際 1 ① 検査のための医療機器 ・ 電子体温計 ・ 電子血圧計 ・ パルスオキシメーター ・ 心電計 ・ 生体情報モニター ② 医療の補助を行う医療機器 ・ 輸液ポンプ ・ シリンジポンプ		講義
第 3 回	医療機器の実際 2 ・ 吸引機 ・ ネブライザー ・ 人工呼吸器		講義
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の本授業に関連する内容に必ず目をとおしてから授業を受ける</li> <li>分からないことはそのままにせず、疑問を解決できるように行動する</li> </ul>		